



下境っ子

直方市立下境小学校
校長 塩田 朋久

創立150周年② ～1873年 下境小学校誕生～

時は明治維新のころ。国を豊かにしていくには「教育」が重要であるという考え方が全国に広まり、1872年(明治5年)に「学制」が定められました。ここ、下境地域(当時は鞍手郡下境村)でも学校創立の機運が高まり、1873年(明治6年)3月に「下境小学」

として児童数42名で誕生しました。学校は、民家を買ったもので、いわゆる「寺子屋式」そのものであったそうです。

その後、しっかりとした学校の建物が必要ということで、1876年(明治9年)、1890年(明治23年)と校舎の場所は変わっていきました。※左図は50年前の資料



福地小に吸収された時期が・・・

明治時代に入って、行政区や学区が何度も変更されていました。その影響を受けて、下境小学は明治11年に上境

校(今の福地小)の仮校となりました。この当時は校区が、上境・下境・永満寺・畑・中泉の5つの村がセットになっていました。上境まで通うのは遠いので、通学する児童は大幅に減ったそうです。そこで、地域で反対運動が起こり、明治13年に福地小より分離して再び下境小学を設立。ところが4年後の明治17年にまた福地小に吸収されて、下境小学は廃校となったのでした。そこからはしばらく福地小学の分教場(分校のようなもの)として、この下境でエリアの子どもたちの教育活動を進めていたのです。

そして、不安定だった行政区が固まり、完全に一村として独立した下境村では、明治22年、分教場を「下境尋常小学校(しもざかいじんじょうしょうがっこう)」として、再スタートを切ったのです。(つづく)

人権集会を行いました

16日(木)に、全校で「人権集会」を行いました。テーマは「つながり～みんなちがって みんないい」でした。子どもたちは、これまで学んできたことを学年ごとに発表しました。

1年生は、クラスの子どもたちの「やさしいいっぱい」のつながりを、2年生は、「いいとこみつけ」をもとにした友達とのつながりを、3年生は、地域調べをもとにした地域方々とのつながりを、4年生は防災学習をもとにした「命を守る」人々とのつながりを、5年生は自然教室で学んだことをもとにした友達とのつながりを、そして、6年生は最上級生として、全校とのつながりを表現しました。



また、今回は「願児我楽夢(がんじがらめ)」さんによる、人権コンサートも行っていました。

「人権教育」は学校の教育活動すべての場面で行うものです。私がずっと子どもたちに伝えている「やさしい人にならなしょう」もそうです。AIやデジタル化が飛躍的に生活に浸透してきている現在だからこそ、時々立ち止まって「人としての生き方」を考えなくてはならないと思っています。今後も、子どもたちの発達段階にあわせて、人権教育を推進していきたいと思っています。